

編集後記

例年になく長い梅雨が続き、気分的にも湿りがちな今日このごろですが本誌が皆様の御手許にとどく頃は真夏の陽が燦々と降り注いでいる頃と思います。この真夏の明るい日差しとは別にオイル危機が除々に我々の身近かに侵入してきて世情の先行きの暗さをかんじさせます。

しかしながら学問の世界は世情とは別のものであり、歯学会も五年目を迎えようやら独り立ちして将来に向けて飛躍すべき基盤ができ上がったのではないのでしょうか。それにつけても大学関係の会員の発表だけではなく在野で活躍されている会員の皆様の投稿を切に望んでやみません。
(名和澄黄雄)

新年度を迎えてガタガタとしている間に2号誌をまとめなければならぬ時期となってしまいました。今回ご投稿を下された方々の中にもきっと原稿の締切日を気にかけてながらご執筆をされたことと思います。各論文の受付日をご覧になるとおわかりのように委員会としても多少のおくれはいたしかたないと暗々のうちで認めておりますが、発行日を尊重するとどうしても編集実務の急ぎや印刷関係の方にも迷惑がかかってきます。そこで1～2週間発行日をづらせたりして処理をいたしています。しかしながらこれも定期学術刊行物である以上、この線以上はどうしてもゆずれないと考えておりますので、会員の方々もこの点お含みを下さい。せっかく数日のちがいで4カ月後の次号誌の掲載になってしまうことがお気の毒で、或いはせっかく発行するなら一つでも多くの内容を掲載して会員にお届けしたい気持ちが交錯しているのが現実です。

さて、本号誌を除いてあと2号を編集いたす役務をもつ私も委員会としては、すでに通常の投稿論文の他に特別な編集企画をすすめ各執筆者の方々にお願い

を申上げて着稿をお待ちするばかりとなっています。すこしくこれをこの欄で予告させていただき、次号、次々号誌をぜひご期待願いたいと存じます。

54年11月発行の4巻3号誌では特集論文を掲載します。題して「顎の成長発育」でそのテーマと執筆者の方々は次のとおりです。

(1)顎骨の個体発生

野坂洋一郎教授(口腔解剖第一)

(2)顎・顔面頭蓋の成長とくに骨格系の成長を中心として

亀谷哲也助教授(歯科矯正)

(3)乳歯列の咬合とその発育変化について

甘利英一教授(小児歯科)

(4)顎骨の吸収

田中久敏教授(歯科補綴)

また、この号の総説は、「歯槽堤粘膜の炎症性変化とくにポンティックによる影響について」石橋寛二助教授(歯科補綴第二)からいただけます。

55年3月発行の5巻1号誌の総説には、第5回総会(54.10.27)において特別講演をいただける川名林治教授(医学部細菌)、並びに臨床と基礎系の各領域の接点に位置づけられる歯科理工学の亀田 務教授から頂戴できることになっています。

どうか、会員の方々もこの機会に原著、症例報告、トピックス欄にぜひ原稿をお寄せ下さるよう望んでいます。

最後になりましたが、本号誌にはかなりの短期間の中で伊藤忠信教授にお願いして「Phenothiazine系薬物と口腔毒性」についての総説を村井繁夫講師と共著でいただきました。歯科臨床医家にとっても大変有意義な論文がいただきました。原著5編、症例報告1編とかなり充実した号となりましたことうれしい限りです。ご投稿を感謝します。

(54.6.30 石川富士郎)

次号誌第4巻3号について

投稿締切 昭和54年9月15日
発行予定日 昭和54年11月15日

本号誌143頁の投稿の手引きに従って、ご執筆下さい。

所定の原稿用紙は学会事務局(歯学部A棟4階歯学部長室副室)に備えてありますのでお申出下さい。

岩手医科大学歯学会編集委員会